

第5章 火災による死傷者の状況

1 火災による死者

○ 火災による死者は 89 人で、前年と比べて増加。

(1) 発生状況

ここでとりあげる「火災による死者」とは、火災に起因して死亡した者をいい、「自損行為」とは、放火による自損行為のことをいいます。

火災による死者の年別発生状況をみたものが表 5-1-1、年齢区分別と火災種別、男女別の死者発生状況をみたものが表 5-1-2、月別火災件数と自損行為を除いた死者の発生状況をみたものが表 5-1-3 です。

表 5-1-1 年別発生状況（最近 10 年間）

年別	全火災件数	火災の発生した件数	死者発生率 (%)	死者数合計	の自損行為以外死者数	年齢区分別					
						5歳以下	6 19歳	20 64歳	65 74歳	75歳以上	不明
25年	5,190	80	1.5	87(10)	77	-(-)	1(-)	30(7)	16(2)	40(1)	-(-)
26年	4,804	87	1.8	94(16)	78	-(-)	-(-)	21(7)	25(8)	47(-)	1(1)
27年	4,430	87	2.0	95(16)	79	2(-)	-(-)	34(10)	24(3)	35(3)	-(-)
28年	3,980	77	1.9	83(15)	68	1(-)	-(-)	28(9)	28(6)	24(-)	2(-)
29年	4,204	76	1.8	79(14)	65	-(-)	1(-)	27(8)	20(5)	30(-)	1(1)
30年	3,972	79	2.0	86(12)	74	-(-)	-(-)	24(3)	30(6)	32(3)	-(-)
元年	4,085	95	2.3	108(17)	91	1(-)	-(-)	42(8)	29(3)	36(6)	-(-)
2年	3,693	80	2.2	86(10)	76	-(-)	-(-)	27(8)	17(1)	42(1)	-(-)
3年	3,935	78	2.0	86(14)	72	-(-)	-(-)	26(10)	17(1)	43(3)	-(-)
4年	3,952	78	2.0	89(14)	75	-(-)	1(1)	26(5)	23(1)	38(6)	1(1)

注 1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

2 () は「自損行為による死者」数を内数で示したものです。

3 死者発生率とは、死者の発生した火災件数が全火災件数に占める割合です。

○ 死者発生状況をみると、死者の発生した火災は 78 件（前年比同数）、死者数は 89 人発生。

○ 死者発生率をみると、全火災件数の 2.0%発生。

表 5-1-2 年齢区分と火災種別、男女別死者発生状況

死者の年齢区分		火災種別							男女別		
		合計	建物火災					車両	その他	男 性	女 性
			小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや				
火災件数		78	70	19	13	29	9	1	7		
死者数	合計	89	80	24	16	31	9	1	8	56	33
	自損行為以外	75	73	23	15	27	8	-	2	46	29
	5歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6-19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20-64歳	21	19	8	1	9	1	-	2	16	5
	65-74歳	22	22	7	6	8	1	-	-	14	8
	75歳以上	32	32	8	8	10	6	-	-	16	16
自損行為による死者	14	7	1	1	4	1	1	6	10	4	

表 5-1-3 月別火災件数と死者発生状況

項目	月 合計	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12												
		火災件数	3,952	401	354	379	304	314	315	302	266	248	308	352
死者数	合計	75	6	17	16	4	5	1	3	2	2	6	3	10
	高齢者以外	21	-	3	1	1	3	-	2	1	2	-	-	8
	高齢者	54	6	14	15	3	2	1	1	1	-	6	3	2
高齢者の占める割合(%)	72.0	100.0	82.4	93.8	75.0	40.0	100.0	33.3	50.0	0.0	100.0	100.0	20.0	

注1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

2 死者数は、自損行為による死者を除いています。

3 1月から3月及び12月を合わせた期間を「火災多発期」といいます。

- 男女別に死者発生状況をみると、男性が56人(62.9%)、女性が33人(37.1%)となっている。
- 年齢区分別に死者発生状況をみると、自損行為を除く高齢者の死者は54人(72.0%)で、自損行為を除く死者数の7割以上を占める。
- 火災種別ごとの自損行為を除く死者発生状況をみると、73人が建物火災で発生。建物火災による死者のうち、部分焼以上に延焼拡大した火災による死者は65人(89.0%)発生。
- 月別火災件数と死者発生状況をみると、火災多発期の火災件数は1,543件(39.0%)で、自損行為を除く死者数は49人(65.3%)となっており、6割以上を占める。

(2) 出火原因別発生状況

発火源別の経過・火災種別ごとに発生した死者数をみたものが表 5-1-4、年齢区分と発火源別に死者発生状況をみたものが表 5-1-5 です。

表 5-1-4 発火源別の経過・火災種別死者発生状況

発火源	合計	経過								火災種別				
		可燃物が接触する	火源が落下する	電線が短絡する	放火	不適当な処に捨てる	トラッキング	その他・不明	建物	その他	その他			
		合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	その他							
合計	75	11	10	8	8	5	4	29	73	23	15	27	8	2
たばこ	15	-	9	-	-	5	-	1	15	4	2	8	1	-
電気設備機器	19	7	-	8	-	-	4	-	19	6	3	7	3	-
小計	19	7	-	8	-	-	4	-	19	6	3	7	3	-
電気ストーブ	7	6	-	1	-	-	-	-	7	2	1	3	1	-
コード	5	-	-	5	-	-	-	-	5	3	1	-	1	-
差込みプラグ	3	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	3	-	-
電気こんろ	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
白熱灯スタンド	1	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
充電式電池	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
オイルヒーター	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-
ガス設備機器	5	3	-	-	-	-	-	2	5	1	-	2	2	-
小計	5	3	-	-	-	-	-	2	5	1	-	2	2	-
ガステーブル	2	1	-	-	-	-	-	1	2	-	-	1	1	-
大型ガスこんろ	2	1	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	1	-
ガスストーブ	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
燃えさし	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
灯明	4	-	1	-	-	-	-	3	4	2	-	2	-	-
ライター	4	-	-	-	3	-	-	1	4	-	2	2	-	-
不明	27	-	-	-	5	-	-	22	25	10	8	6	1	2

注 自損行為による死者を除いています。

表 5-1-5 年齢区分と発火源別死者発生数

発火源	合計	年齢区分					
		5歳以下	6-19歳	20-64歳	65-74歳	75歳以上	
合計	75	-	-	21	22	32	
たばこ	15	-	-	5	7	3	
電気設備機器	小計	19	-	-	3	5	11
	電気ストーブ	7	-	-	1	1	5
	コード	5	-	-	1	2	2
	差込みプラグ	3	-	-	-	2	1
	電気こんろ	1	-	-	-	-	1
	白熱灯スタンド	1	-	-	-	-	1
	充電式電池	1	-	-	1	-	-
	オイルヒーター	1	-	-	-	-	1
ガス設備機器	小計	5	-	-	-	2	3
	ガステーブル	2	-	-	-	-	2
	大型ガスこんろ	2	-	-	-	1	1
	ガスストーブ	1	-	-	-	1	-
燃えさし	1	-	-	-	-	1	
灯明	4	-	-	1	-	3	
ライター	4	-	-	1	2	1	
不明	27	-	-	11	6	10	

注 自損行為による死者を除いています。

- 発火源別で見ると、電気設備機器が19人（25.3%）、次いでたばこが15人（20.0%）、ガス設備機器が5人（6.7%）の順で発生。
- 電気設備機器による火災の死者は電気ストーブが最も多く、年齢区分別で見ると高齢者が6人（31.6%）で最多。
- 発火源別の経過をみると、たばこによる火災は「火源が落下する」で9人（60.0%）、「不適當な処に捨てる」で5人（33.3%）発生。年齢区分別で見ると、たばこによる火災の死者は高齢者が10人（66.7%）で最多。

2 火災による負傷者

○ 火災による負傷者は、742人で前年と比べて78人増加。

(1) 発生状況

ここでとりあげる「火災による負傷者」とは、火災に起因して負傷した人をいいます。

ア 発生状況

火災による負傷者の年別発生状況をみたものが表5-2-1です。

表 5-2-1 年別発生状況（最近10年間）

年別	全火災件数	火災負傷者の発生した件数	負傷者発生率 (%)	負傷者数合計	負傷者区分			
					一般人			消防活動従事者
					小計	自損行為以外	自損行為	
25年	5,190	608	11.7	781(3)	763(3)	744(3)	19(-)	18
26年	4,804	579	12.1	790(8)	777(8)	761(7)	16(1)	13
27年	4,430	602	13.6	827(4)	815(4)	804(4)	11(-)	12
28年	3,980	604	15.2	853(8)	842(8)	831(7)	11(1)	11
29年	4,204	569	13.5	758(9)	750(9)	734(7)	16(2)	8
30年	3,972	530	13.3	798(19)	787(19)	775(18)	12(1)	11
元年	4,085	540	13.2	705(9)	700(9)	687(7)	13(2)	5
2年	3,693	561	15.2	710(3)	705(3)	690(3)	15(-)	5
3年	3,935	528	13.4	664(4)	658(4)	647(4)	11(-)	6
4年	3,952	568	14.4	742(2)	734(4)	718(2)	16(2)	8

注1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

2 消防活動従事者とは、消防職員、消防団員などの消防活動等に従事した者の区分です。

3 ()内は、30日死者(火災による負傷者のうちで、48時間を超え30日以内に死亡した人)を内数で示したものです(「30日死者」の項を参照)。

4 負傷者発生率とは、負傷者の発生した火災件数が全火災件数に占める割合です。

○ 負傷者が発生した火災は568件(前年比40件増加)で、742人(同78人増加)が負傷。このうち一般人の負傷者は734人(同76人増加)発生。

イ 火災種別・年齢区分と受傷程度の状況

火災種別と年齢区分別に受傷程度をみたものが表 5-2-2、3人以上の負傷者が発生した火災状況をみたものが表 5-2-3 です。

表 5-2-2 火災種別・年齢区分別受傷程度状況

受傷程度	負傷者数合計	火災種別										年齢区分				
		建物					車 両	船 舶	林 野	そ の 他	5 歳 以 下	6 19 歳	20 64 歳	65 74 歳	75 歳 以 上	
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や										
合計	718	671	40	57	233	341	11	2	-	34	10	32	449	97	130	
重篤	11	10	-	1	3	6	-	-	-	1	-	-	4	1	6	
重症	73	67	5	10	23	29	1	1	-	4	-	1	33	14	25	
中等症	170	159	15	16	46	82	3	1	-	7	5	4	91	32	38	
軽症	464	435	20	30	161	224	7	-	-	22	5	27	321	50	61	

注 消防活動従事者（8人）及び自損行為による負傷者（16人）を除いた人数です。

表 5-2-3 3人以上の負傷者が発生した火災状況（最近10年間）

年別	火災発生件数	負傷者数	火災3人以上負傷者発生件数	負傷者数合計（3人以上）	
25年		608		30	104
26年		579		43	178
27年		602		48	193
28年		604		46	205
29年		569		34	137
30年		530		46	237
元年		540		31	113
2年		561		32	113
3年		528		27	92
4年		568		40	141

注 消防活動従事者（8人）及び自損行為による負傷者（16人）を除いた人数です。

- 火災種別ごとに負傷者の発生数をみると、建物火災の部分焼以上の火災で負傷者が330人（45.9%）発生し、建物火災の5割近くを占める。
- 受傷程度別でみると、軽症が464人（64.6%）で最も多く、負傷者のおよそ6割を占める。
- 火災による負傷者を年齢区分でみると、高齢者は227人（31.6%）で、そのうち後期高齢者が130人（57.2%）発生。
- 3人以上の負傷者が発生した火災をみると、40件（前年比13件増加）で、負傷者が発生した火災のうち、7%の割合で発生。

(2) 出火原因別発生状況

ア 出火原因別受傷時の状態

出火原因別及び負傷者の男女別で受傷時の状態をみたものが表 5-2-4 です。

表 5-2-4 出火原因別受傷時の状態

受傷時の状態	合計	主な出火原因											男女別	
		ガステーブル等	たばこ	大型ガスこんろ	放火(疑い含む)	電気ストーブ	コード	ロソク	ライター	大型ガスレンジ	電気こんろ	その他・不明	男性	女性
合計	718	108	73	54	39	29	19	17	16	12	12	339	443	275
初期消火中	192	28	15	21	11	8	6	6	3	5	3	86	144	48
作業中	123	17	3	18	1	-	2	3	7	5	3	64	98	25
家事従事中	75	49	5	-	2	1	2	1	-	-	-	15	17	58
就寝中	72	1	13	1	3	11	1	4	1	-	3	34	48	24
避難中	67	1	3	9	4	4	4	1	-	1	-	40	36	31
休憩・休憩中	44	-	9	4	1	1	1	1	3	-	-	24	24	20
飲食中	10	1	1	-	-	-	-	1	-	-	1	6	7	3
火災通報中	6	-	1	-	-	1	1	-	-	-	1	2	2	4
救助中	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	2	2	2
見物中	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	1
自殺を図った	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2	4	-
火遊び中	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	1	2
消防隊に協力中	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1
その他・不明	111	10	20	1	12	3	2	-	2	1	1	59	55	56

注 消防活動従事者（8人）及び自損行為による負傷者（16人）を除いた人数です。

- 出火原因別の上位3位をみると、ガステーブル等が108人（15.0%）で最も多く、次いでたばこが73人（10.1%）、大型ガスこんろが54人（7.5%）となっている。
- 受傷時の状態別でみると、ガステーブル等では家事従事中に負傷したものが49人（45.3%）で最も多く、次いで初期消火中が28人（25.9%）で、この2つでガステーブル等で受傷した7割以上（71.2%）を占める。
- 男女別では、男性が443人（61.7%）、女性が275人（38.3%）と男性の受傷割合が高い。受傷時の状態をみると、男性は初期消火中、女性は家事従事中の受傷割合が最も高い。

イ 受傷の理由

受傷の理由をみたものが図 5-2-1 です。

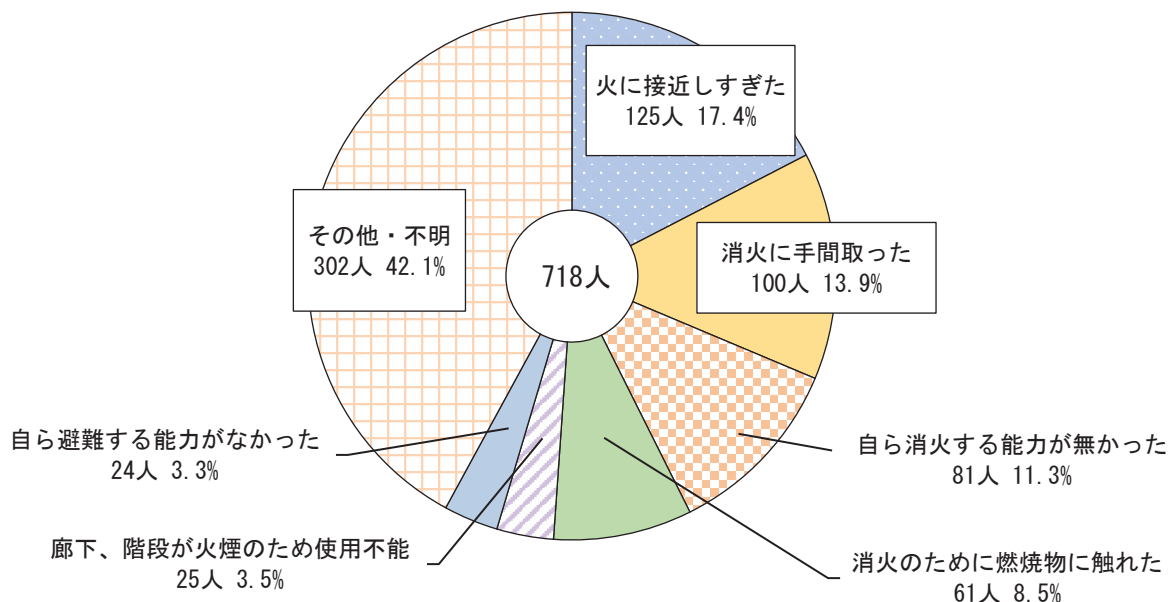


図 5-2-1 受傷の理由

注 「自ら消火する能力がなかった」とは、出火時に家事従事中（調理中など）で着衣着火などにより受傷したものです。

○ 受傷の理由をみると、「火に接近しすぎた」が125人（17.4%）で最も多く、次いで「消火に手間取った」が100人（13.9%）発生。

(3) 30日死者

30日死者とは、火災による負傷者のうちで、48時間を超えて30日以内に死亡した人のことをいい、年齢区分状況をみたものが表 5-2-5 です。

表 5-2-5 30日死者の年齢区分状況

受傷程度	合計	年齢区分				
		5歳以下	6〜19歳	20〜64歳	65〜74歳	75歳以上
重篤	2	-	-	-	1	1

○ 令和4年中の30日死者は2人で、前年よりも2人減少。30日死者2人の内訳は全て高齢者で、後期高齢者が1人、前期高齢者が1人発生。